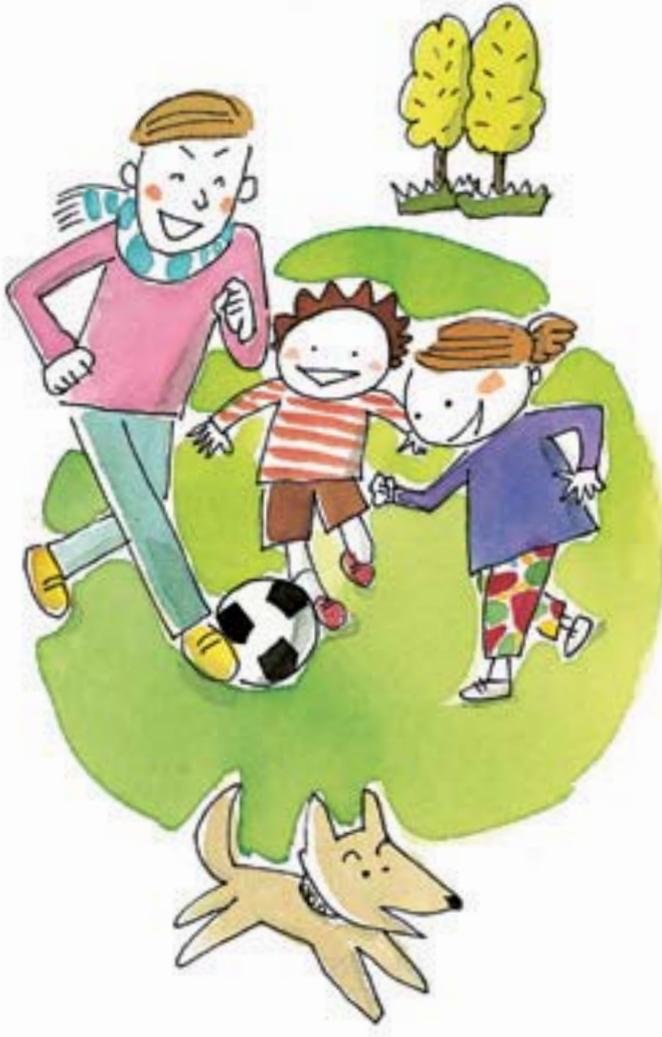




虹 にじ

No.2
平成17.3.1発行

墨田区男女共同参画情報誌



特集 墨田区子育て事情 楽しく子育てして頂けますか？



墨田区男女共同参画情報誌『にじ』は女性も男性も共に輝く社会へのかけはしになることを願って名付けました。

CONTENTS

巻頭インタビュー
鈴木光司さん 2P

特集 墨田区子育て事情 4P

区民レポート
地域に広がる子育ての輪 6P

インフォメーション 8P

墨田さんちの男女共同参画物語
パートで働きに出たものの..... 10P

私らしく輝いて
梅田俊明さん 12P

巻頭 インタビュー

鈴木光司さん 小説家

大ベストセラー小説「リング」「らせん」「ループ」。
日本中を恐怖に震え上がらせた小説の作者は、
子どもを保育園に送り迎えするパパでした。
日常感覚を生かしながら非日常を描く気鋭の作家、
鈴木光司さんにお話をうかがいました。



子どもを外の世界に連れ出して
チャレンジ精神を育てるのは
父親の役割です

作家をしながら子育てをして
いたそうですが、そのこの
ことをお聞かせください。

もともと作家になりたかった僕は、
大学を卒業するときも、結婚するこ
きも、就職することはまったく考え
ませんでした。一人めの子どもが生
まれたときは、塾講師やフリーライ
ターなどの仕事をしていました。妻
は高校教師でしたから、時間的に余
裕のある僕が子育てをするのはごく
自然ななりゆきだったのです。

上の娘が3歳になり、二人めの子
どもが生まれるころに作家一本でや
っていくことにしました。それから
は、朝9時に子どもたちを保育園に
送り、夕方5時30分に迎えに行くま
での間だけ小説を書くという生活を
していました。

土日は、仕事を休みにして子ども
たちを連れ出していました。作家デ
ビューはしたものの、お金はあまり
ない頃です。でも、都電に乗って遊
園地気分を味わってみたり、たまに
安い民宿を探しては一泊旅行をした
り……と、貧乏なりに毎回違うイベ
ントを考えては遊んでいました。

ベストセラーが出た翌年には、ク
ルザーを買って、初島のリゾート

ホテルに乗りつける、なんて遊び方ができるようになりました。

ささやかでも豪華でも、幅広い体験ができたことがよかったです。よく電車が乗り物好きなので、よく電車やバイクなどに乗せていたら、いつのまにか娘たちも乗り物好きになりましたね。僕の大好きなクルージングは、最近あまり喜ばれなくなっています(笑)。

お嬢さんたちが成長された今、お父さんとの関係はどうですか？

はつきりいって、二人ともめちゃくちゃなついでにいます。今、上の子が18歳で下の子が14歳ですが、ここ10年くらい、僕は怒ったことがありません。

子どもに嫌われるのは、理不尽に怒る父親です。不機嫌に黙りこんで、まわりが気を遣ってくれるのが当然だと思っている……。そんなタイプの男が家にいると、家族は安らがないです。そしてますます子どもが離れていきます。

僕は、娘たちに慕われているから、家にいるとほっとします。だから僕は、家にいるときはいつもゴキゲンで、怒ることがないのです。

でも実は、僕も昔、理不尽な怒り方をしたことがあるんです。上の娘にピアノを教えていたとき、簡単な所が何度やってもできないものだから、ついイライラして怒ってしまっただ。それが10年前くらいで、いまだにそのことを責められるんですよ。「悪かったよ、もう忘れてよ」と言っています(笑)。

これからのお仕事の見聞かせください。

僕は、今まで日本になかったような、スケールの大きな小説を書きたいと思っています。欧米では、メルヴィルの「白鯨」やヘミングウェイの「誰がために鐘は鳴る」など、ダイナミックな世界を描いた作品が多いのですが、日本の小説は、日常的な事を題材にしたものが多い。僕は、たとえば「小舟で荒海を乗り越えて帰ってきた」というような、危なくらいにダイナミックな体験を試みたい。そしてその体験を生かした力強い小説が書きたいのです。

でも、こういう冒険好きの男は大体、子育てをするタイプではないと思われちゃう。たしかに僕は、たまたま妻よりも時間に余裕があっ

たから子育てをしただけです。その結果、多くのことに気づくことができました。これは、本当にラッキーだったと思います。

海やクルージングが好き僕が子育てをするというこのミスマッチは、これまでの作品に生かされていると思います。非日常世界を描きながら、日常感覚を織り交ぜていく小説を、これからもめざしたいですね。

これから家庭を持つたり子育てをする世代の人たちに、メッセージをお願いします。

せっかく夫婦が二人そろっているのなら、二人で子育てしたほうが楽しいですよ。そのときには、二人で母さんの役をすることはありません。日本では、母性一色で子どもを育ててきたから、男の子がたくましく育ちにくい部分があると思います。家にいる母親が一人で子育てに集中していると、子どもかわいさのあまり、狭い世界の安全な道しか歩ませないことがあるからです。

だから、僕は父親は、子どもにチャレンジ精神を植えつける役割を担ってほしいと思うのです。子どもを外の世界に連れ出してあげてほしいのです。外の世界といっても、なに

もキャンプに行くことじゃない。将棋でも何でもいいのです。お父さんが好きな世界に子どもを連れ出し、子どもだけでは知り得なかった世界を見せてください。それが、外の世界に向けての好奇心、チャレンジ精神が育つ手助けになるのです。

女性に言いたいのは、子育てに忙しいときでも、ぜひ自分が夢中になれることに目を向けてほしいということです。子どもだけに集中することではなく、自分の人生を生きることが、子どもにとってもいい影響になるでしょう。



プロフィール すずき・こうじ
1957年生まれ。90年、「楽園」で第2回ファンタジーノベル大賞優秀賞を受賞して作家デビューを果たす。その後発表した「リング」がベストセラーになり、続編「らせん」で吉川英治文学新人賞を受賞。子育て論を綴ったエッセイも多数。趣味のクルージングでは一級小型船舶操縦士免許を持つ。

楽しく子育て

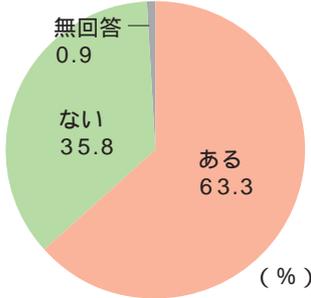
してますか？

子育ては女性一人の役目ではありません。
父親も同じようにかかわり、夫婦で、
そして社会全体で担っていくことが必要です。
子どもへの虐待があとをたたないなか、いま「子育て力」が問われています。
子育ての現状を探るとともに、子育てにおける男女のパートナーシップや
地域の子育て支援について探ってみました。

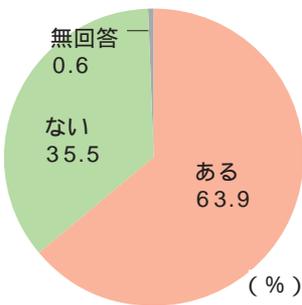
子どものいる女性の6割以上は 育児不安を感じている

全国20～34歳の子どもがいる女性に聞きました。

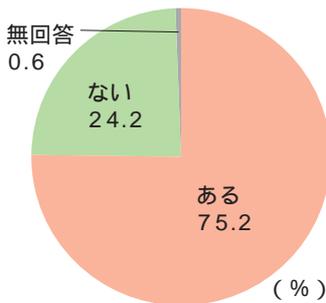
Q.育児の自信がなくなることがある？



Q.自分のやりたいことができなくて
あせることがある？

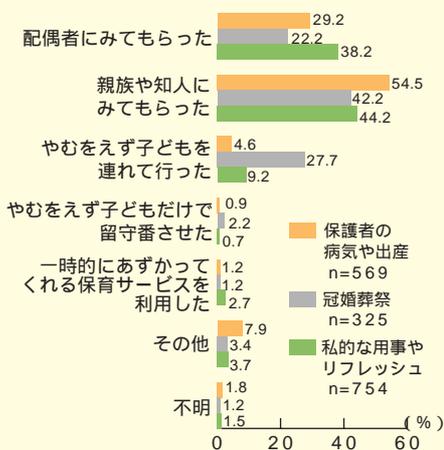


Q.なんとなくイライラすることがある？



平成15年版「国民生活白書」内閣府編
「若年層の意識調査」により作成

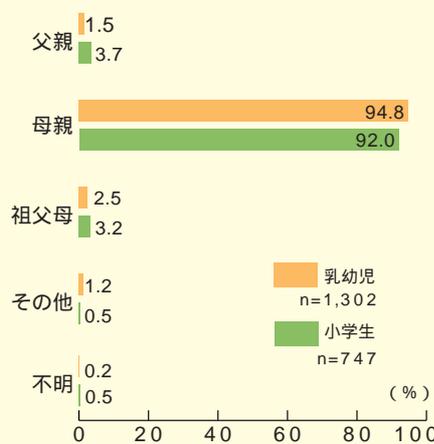
データ2 短時間の支援が必要になった際の対応



短時間子どもをみてほしいとき、どのように対処したかを、その理由別に聞いたものです。どの場合でも、「親族や知人にみてもらった」が半数近くを占めています。

資料：『墨田区次世代育成支援のための調査報告書』(平成16年)

データ1 主に子育てをしている人



墨田区の乳幼児・小学生がいる家庭で、子どもの世話を主にしている人は、それぞれ母親が9割以上と、圧倒的多数を占めています。

資料：『墨田区次世代育成支援のための調査報告書』(平成16年)

なぜ、いま子育てが大変？

かつて農業や自営業が主流だった時代、子育ては家族や地域のみで担っていました。しかし、戦後、産業構造が大きく変わり、核家族や共働き家庭が増えた今日、地域とのつながりも希薄となり、子育て環境はますます孤立化しています。そのため、子育てを負担に感じている女性が少なくありません。

下の墨田区の調査（データ3）からもわかるように、いま、多く

の保護者が子育てに不安を感じています。また右ページの円グラフ、内閣府「若年層の意識調査」（平成15年）では6割以上の女性が「育児に自信がなくなる」「自分のやりたことができなくなる」と答えておりその割合は正社員で働く女性よりも専業主婦のほうが高くなっています。さらに、女性にとって子育てが

母親の役目」とする性別役割分担意識があげられます。このため、男性の育児参加が得られなかったり、また、子育てのために仕事を辞めてしまうなど、女性の生き方が狭められてしまっている現状がみられます。本来、子育ては楽しく夢のあるものです。子育ても男女でかかわり、そして喜びも責任も分かち合え、そんな社会を築いていくことが求められています。

保育サービスについて

一時預かり、病児保育、休日保育、延長夜間保育などを充実させてほしい／核家族化の現代、就労の有無に関係なく誰でも保育サービスを受けられる状態が望ましい

地域での子育てについて

学校と地域が連携し、子育てしやすい社会をつくってほしい／高齢者の力を借りて、子どもたちの健やかな育成ができるような仕組みをつくってほしい／地域社会の結束や大人同士、大人から子どもへの声かけが重要だと思う／地域活動や近所づきあいがもっと活発になれば、安心して子育てのできる環境がつけられるのでは／世代間のコミュニケーションをとり、いつでも相談できる態勢を

資料「墨田区次世代育成支援のための調査報告書」から抜粋（平成16年）



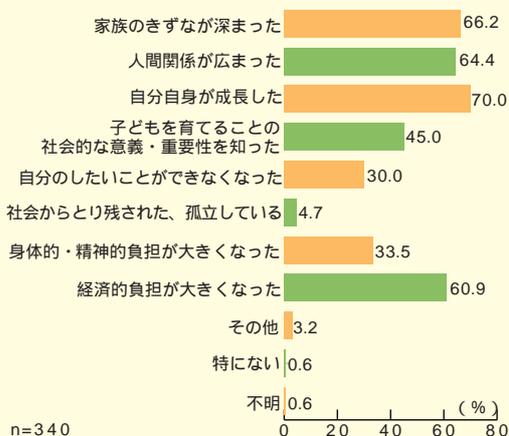
地域施設について

子育ての悩みを相談できる施設の充実を／親子で遊べる公園があると、たくさんのお母さんと出会う機会が増え、子どもも友だちができ、学びながら楽しく過ごせると思う／児童館などをもっと多くの子どもたちのたまり場になるよう使いやすくしてほしい

就労と子育ての両立について

大切なのは家族全員が揃って夕食の食卓を囲めること／行政はまず残業などを法律で規制してほしい／男女とも子育てと仕事の両立ができるよう、社会全体の意識が変わるべきだと思う／産休、育休、時差出勤、子育て休暇などの充実を図るよう、企業への指導をしてほしい／子育ての経済的負担が大きく、そのため両親が働かなければならない／毎日子育てと仕事と家事に追われ、自分の時間がなく、何のために生きているのかわからない

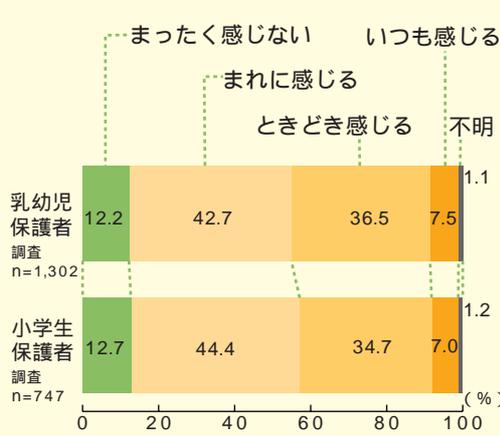
データ4 子育てを経験して感じること（複数回答）



子育てを経験から感じることを聞いたところ、「自分自身が成長した」「家族のきずなが深まった」「人間関係が広まった」と、上位3位がすべて肯定的な答えでした。

資料：『墨田区次世代育成支援のための調査報告書』（平成16年）

データ3 子育てに対する不安感



乳幼児と小学生の保護者で、子育てに対する不安を「まれに感じる」人、「ときどき感じる」人、「いつも感じる」人を併せると8割を超えています。

資料：『墨田区次世代育成支援のための調査報告書』（平成16年）

地域に広がる子育ての輪

親子で安心して出かけられる場、子育ての不安を話せる場、安心して子どもを預けられる場など、子育てを楽しいものにしていくには地域の支援が欠かせません。いま、地域に広がる子育ての輪について取材しました。

すみだ子育て相談センター

親子で仲間づくり
ほぼ毎日利用しています



小迫真紀さん

私は結婚して墨田区に引っ越して来たのですが、見知らぬ土地での初めての子育てはとても不安でした。そんなとき子育て相談センターが開設されることを知り、利用してみることに。ここは乳幼児とその親を対象にした施設だけあって、子ども私も溶け込みやすく、すぐにお友だちができました。以来、ほぼ毎日のように通っています。

ここの子育て広場には絵本やおもちゃなどのほか、楽しい遊びのプログラムが日替わりで用意されていて、なかでも音



「何より安全にのびのびと、子どもを遊ばせることができるのがうれしいですね」という小迫さん

楽に合わせて自由に太鼓や木琴をたたく遊びが子どもたちに人気です。また、ここではセンターの指導員の方の目もあるので、子どもを遊ばせながら、ほかのお母さんたちと話をしたり、情報交換することもできます。

とかく小さい子どもがいると家に閉じこもりがちになってしまつものですが、そんなときは、ぜひ子育て相談センターに来てみませんか。子どもはもちろん、母親自身もリフレッシュでき、子育てがより楽しくなりますよ。

「子どもへの暴力＝虐待」と決めつけないで

大日向雅美先生



プロフィール/恵泉女子大学教授。子育てひろば「あい・ぼーと」施設長。内閣府少子化対策大綱検討会委員、厚生労働省社会保障審議会児童部会委員などを歴任。著書多数。

幼児・児童虐待のニュースが連日のように伝えられています。それを見て「私も子どもを叩いてしまつ。これって虐待？」と悩んでいる人は少なくないでしょう。そこで私がお伝えしたいことは、子どもへの暴力を「虐待」という言葉でひとくくりにはいけないということ。日本語でいう「虐待」は、2種類に区別されることが必要だと思います。

一つは「アビユーズ(Abuse)」と呼ばれていて、長期間にわたる暴力により心身に重大な危険を与えるものです。子どもに対するアビユーズは、親が生活能力や育児能力を極度に欠いている場合に起きます。この問題の解決には、専門家のケアによる長期間の支援が必要です。

一方、子育てを一生懸命している人が、カツとなって叩いてしまつ、心ない言葉を投げかけてしまつ、というようなものを「マルトリートメント(Maltreatment)」といいます。マルトリートメントとは、「不適切な対応」という意味で、子どもの健全な成長を支援するのに適切でない行動のことです。その範囲は幅広く、子どものためと思って毎日休みなく塾や習い事に通わせたり、成績を気にして、過度に子どもを追いつめるような態度も含まれます。子育てを一手に担う母親が、

熱心さのあまり心身のゆとりをなくしたことで起こることもみられます。熱心なだけに、これを「虐待」と呼んでしまつのはあまりにもかわいそうだと思います。逆に、アビユーズの人がマルトリートメントと混同されても問題です。相談しても、「誰にでもあることだから」と深刻に受けとめてもらえない、適切な支援が得られない、と苦しんでいる人もいます。ですから、はっきりと両者を区別する必要があります。

思わず子どもを叩いてしまったことで悩んでいる人にお伝えしたいのは、それは「虐待」ではなく、マルトリートメントではないですが、ということ。それならば、少しゆとりを取り戻すことでほとんど解決できるのです。そのためは、1日に30分、一週間に数時間でいいですから、自分の時間を持つってください。そして子育てから自分をちょっと解放す時間を持ちましよう。それは、少しもわがままなことではありません。親として子どもを愛するために必要な、当然の権利なのです。

また、周囲の人の理解はもっとも力強い支えになります。パートナーに悩みを打ち明けたり、子育て支援センターなどで相談したりすることをおすすめします。

**ファミリー・サポート・センター
（サポート会員）**
子育て中の方のお役に立ちたくて
お子さんをお預かりしています



佐野雅子さん

夫婦で長年経営していたお店をやめたあと、何か地域のお役に立ちたいと思い、育児の援助をするファミリー・サポート・センターのサポート会員になりました。いまお引き受けしているのは共働き家庭のお子さんで、ご両親の帰りが遅いとき、代わりに保育園まで迎えにいき、我が家でお預かりしています。

実は埼玉に住んでいる私の娘夫婦も共働きで、周りの方から助けてもらいなから子育てしています。娘にしてやれない分、地域の方のお手伝いができたらいいなと、そんな気持ちでやらせてもらっています。夫も子どもが大好きで、よく遊んでくれます。おかげで夫婦二人の生活に張り合いができました。会員になるには2日間の講習を受けなければならぬのですが、子育て経験のある方ならどなたでもできます。みなさんも地域の子育て支援に参加してみませんか。

ある日のサポート風景



佐野さんが
保育園へお迎えに



佐野さんのお宅で
過ごします



お父さんがお迎えに

**ファミリー・サポート・センター
（ファミリー会員）**
家族の幸せのために子育ての
手助けをお願いしています



仙土寿朗さん

共働きの我が家では、昨年の5月から仕事で帰りが遅くなる日、佐野さんのお宅で子どもを預かってもらっています。このファミリー・サポートのいいところは、そのご家庭で面倒をみてもらえる点ではないでしょうか。息子も「おばあちゃん、おじいちゃん」と呼ぶほどなつ

ていて、自分の家であるのと同じような気持ちで過ごさせてもらっています。

我が家ではお互いの仕事を応援しあいながら、子育ても2人で協力しあっています。特に役割分担はしていません。自然の流れの中でお互いできることをやるよう心がけています。

確かに夫婦で仕事を持ちながら、子育てするのは大変なことです。でも私自身お互い働いていることで、より家族の絆が深まったと感じています。

ですから、男性の方でもできる限り子育てにかかわってほしいと思います。それには仕事に追われるだけの生活ではなく、時には家族を見つめなおす時間を持つてみてはどうでしょうか。そうすると自然と子どもとかかわる楽しさ、大切さが見えてくるのではないのでしょうか。

**育児を応援します
すみだファミリー・
サポート・センター**

すみだファミリー・サポート・センターとは、仕事と育児の両立をはかるため、育児の援助をしたい方（サポート会員）と援助を受けたい方（ファミリー会員）をつなぐ会員組織です。センターのアドバイザーが、ファミリー会員からの依頼に対してサポート会員を紹介し、会員同士で地域における育児の相互援助活動を行います。

【会員になるには】
事前に電話連絡のうえ、センターに
来所して申し込みをしてください。
（申込み時に年会費500円が必要です）

【サポート会員の条件】
20歳以上の健康な方で、墨田区在住の方
センターの趣旨に賛同され積極的に活動できる方
育児経験のある方が、保育士、看護師、教員などの資格をお持ちの方
事前に12時間（2日間）程度の講習を受けていただきます。

【ファミリー会員の条件】
センターの事業の趣旨に賛同され、
生後6か月〜小学校6年生までの子ども
の保護者で、育児の手助けを必要としている方
1時間程度の事前案内を受けていただきます。

そのほか、利用時間や利用料金、活動内容など、詳しい内容については左記までお問い合わせください。

すみだファミリー・サポート・センター
03(5624)6089

墨田区次世代育成支援行動計画を策定しています

次代を担う子どもと子育て家庭に対する支援を総合的に進めるために、「墨田区次世代育成支援行動計画」を策定しています。計画の策定にあたっては、墨田区で福祉、保健、教育等子どもの育成に関わっている関係機関の方や公募の区民など28名が参加する「墨田区次世代育成支援行動計画策定地域協議会」を組織し、平成16年5月から検討を行っています。

また、計画策定の基礎資料として、平成15年度に、子育て中の保護者の方、中高生本人などからアンケート調査を実施するとともに、計画策定の過程で、区民懇談会を開催したり、パブリック・コメント手続きを実施するなど、区民の声を計画に反映するよう努めています。

計画の期間は、平成17年度から21年度までの5か年の計画です。そして、21年度に見直しを行い、22年度から26年度までの後期計画を策定します。

問い合わせ先
厚生・児童課
(56008)6151



計画の体系

基本理念

5つの宣言

具体的な方向性

子どもと親と地域が共に育ち、世代を結ぶまち すみだ

すべての子育て家庭を応援する

子どもの生きる力・豊かな育ちを支える

子育てに喜びと自信をもてるよう親を支援する

地域ぐるみで子育てを見守り、協力しあう

宣言1
すべての子育て家庭がゆとりをもって楽しく子育てできるように、サービスを充実します。

お母さんと子どもの健康づくり
すべての子育て家庭が利用できる子育て支援サービスの充実
保育園等の保育サービス・幼稚園の充実
利用者の視点に立った情報の発信
子育て家庭への経済的な支援

宣言2
子どもたちをたくましく心豊かに育てます

子どもの豊かな育ちを育む場・機会づくり
子どもの生きる力の育成にむけた教育環境の整備
子どもの心とからだの健康づくり

宣言3
地域ぐるみで子育てを見守り、協力しあいます

親同士のつながりと子育て力を育む場・機会づくり
地域の子育て力の育成と協働
子育て・子育て支援ネットワークの構築

宣言4
個別の支援が必要な子どもとその家庭をきめ細かくサポートします

ひとり親家庭の自立支援
障害のある子どもの発達と成長支援
虐待の防止及び虐待を受けた子どもとその家庭への支援
不登校、非行等の問題を抱える子どもとその家庭への支援

宣言5
子どもと子育て家庭が暮らしやすい環境をととのえます

男女が協働して子育てに取り組んでいける環境づくり
子どもの安全を守るための環境の整備
子育てにやさしいまちづくりの推進

すみだ女性センターから
お知らせ

ご参加ください

講演会 平成17年3月12日(土)午前10時～12時 幸せな時間を過ごすために「岩崎由美氏(株)OFFICE WE代表取締役)人と人をつなぐコミュニケーション方法について、お話しいただきます。定員100名

すずかけ講座 平成17年3月19日(土)午後1時30分～暮らしとお金の見直しセミナー&相談会「経済的側面から自己のライフプランを見直し、経済的な知識を身に付けるための講座です。定員30名

募集します

すずかけ大学受講生

男女共同参画社会を「ご理解いただくための男女共学の大学です。全12回の講座等を予定しています。

女性も男性も「自分らしく生きる」社会の実現に向けて、仲間と一緒に楽しく学びませんか。申し込み方法等は、4月11日(日)区報をご覧ください。

お問い合わせ先
(56008)1771



条例制定に向けた「意見書」作成のための意見交換会を行いました



区民等で構成する「墨田区男女共同参画推進会議」では、区が平成17年度に制定する(仮称)墨田区男女共同参画基本条例」に盛り込むべき内容について審議し、このたび「意見書」の中間まとめを行いました。この「意見書」の内容をさらに充実するため、2月4日(金)みどりコミュニティセンター、2月5日(土)すみだ生涯学習センターの2か所で、区民の皆さんとの意見交換会を行いました。

【すずかけ大学 カリキュラム】

回数	日程	内容
1	5/12	開校式
2-4	5/19.25.6/2	男女共同参画社会
5	6/18	樋口一葉 その時代そして現在
6	6/25	子どもとのかかわりの中で
7-9	9/1.8.15	メディア・リテラシー
10	9/22	少子化、家族のかたち
11	9/29	世界の女性
12	10/6	修了式

グループ討議形式で、推進会議委員が進行役となり、「条例」や「男女平等」について参加者に自由に発言をいただき、活発な意見交換が行われました。「墨田区男女共同参画推進会議」では、区民の皆さんのご意見を参考にしながら「意見書」を作成し、平成17年3月に墨田区長に提出します。

児童虐待を防止するために

厚生・児童課から

墨田区では、児童虐待を防止、子どもの人権を守るため、地域ネットワークとして、墨田区子どもを守るためのネットワーク協議会」を設置しています。厚生・児童課に事務局を置き、区役所の関係部署、児童相談所、警察署、区内小・中学校、医師会、民生・児童委員などの地域の関係機関等で構成されており、定期的に会議を開催するなど虐待の防止に向けた連携を図っています。

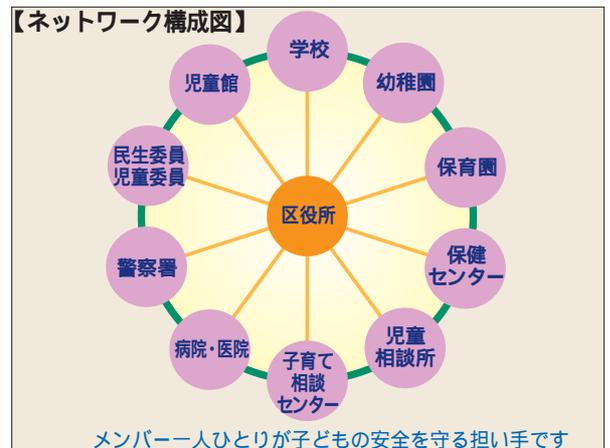
協議会では、「子どもへの虐待」について区民の皆さんに正しくご理解いただき、地域全体で防止するためのPR用パンフレット「みんなで防ぐ！子どもへの虐待Q&A」や、関係機関用マニュアル「虐待予防のための発見・対応なるほどブック」などを発行する一方で、事務局に専門の相談員を配置し、児童に対するさまざまな相談に応じています。

相談窓口

子育て全般に関するさまざまなご相談にお答えします

すみだ子育て相談センター	03(3621)6455
文花子育て相談センター	03(5630)6027
乳幼児子育て相談室(区役所内)	03(5608)6162
向島保健センター	03(3611)6135
本所保健センター	03(3622)9137
虐待に関するご相談にお答えします。	
東京都墨田児童相談所	03(3632)4631
墨田区厚生・児童課児童担当	03(5608)6195
不登校や学校生活、子育てに関する相談・助言を行います。	
すみだスクールサポートセンター	03(3613)0127

【ネットワーク構成図】



墨田さん一家は会社員のお父さん、専業主婦のお母さん、高校生のさくら、中学生の太郎とおじいちゃん、おばあちゃんの6人が一つ屋根の下で暮らす、にぎやか3世代家族。いつも話題が絶えません。さて、今回はどんな話が飛び出すのでしょうか……。



墨田さんちの

男女共同 参画物語

[パートで働きに出たものの……]の巻

さくら お母さん、どうしちゃったの？ ため息なんかついて。

母 女の人が働くって大変だなんて思って。

太郎 えっ、なに？ もう仕事やんなっちゃうたの？

父 おいおい、まだ半年だろう。もう、これだから「女はつかえない」って、言われるんだよ。

母 それは昔の話よ。もう、誤解しないで！ 一つ私が辞めたいって言ったの。

太郎 じゃあ、なに？ 失敗でもしたの？

母 そうじゃなくてその反対。見込みがあるって、先月から配属がかわって、売り場のチーフを任されているのよ。

父 ほう。パートなのにやるじゃないか。

さくら あっ、わかった。プレッシャー感じてるんだ……。

母 まあ、それもあるんだけど、問題はお金よ。働いてみてあらためて思ったんだけど、**パートの賃金**って、ほんと安いなって。

父 しょうがないだろう。パートなんだから……。

母 もう、パート、パートって言わないでよ。パートでもほとんど正社員と同じ仕事をしてるんだから。

太郎 じゃあさあ、正社員にしてもらえばいいじゃん？

さくら もうわかっちゃいないんだから。正社員なんて、そう簡単になれないの。

父 まあ、だけど、家計的には**扶養の範囲**で働いてもらったほうが得なわけだし、仕方な

男女共同参画社会への

キーワード

女はつかえない

せっかく就職してもすぐに辞めてしまう女性たちに対してささやかれた言葉です。結婚したら家庭に入るのが当たり前だった時代、女性の側にも腰掛け程度に働けばよいという意識があったからでしょう。しかし、それも過去のこと。女性の勤続年数は年々増え、管理職の割合も係長クラスで9・4%（平成15年、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より）を占めるまでに地位も向上しています。

パートの賃金

正規社員とパートタイム労働者との賃金格差の是正は以前から叫ばれているものの、なかなか縮まらないのが現状です。平成15年の調査（厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より）では、男性一般労働者を100とした場合、女性一般労働者は67で、女性パートタイム労働者においては、44・5とかなり低くなっています。

扶養の範囲

妻の年収が103万円を超えると、妻の収入に所得税がかかり、夫が配偶者控除を受けられなくなり、世帯収入が下がります。そのためパートで働く女性の中には、それを超えない、つまり夫の扶養の範囲内で働く人がみられます。この優遇措置があるためになかなかパートの賃金が上がらないとの指摘もあり、経済的自立をめざす女性にとっては、むしろ足かせになっているようです。



いんじゃないのか。

母 そうなのよ。だから、専業主婦が働くって大変だなんて思っているわけ。家庭との両立を考えると、パートのような短時間労働がいいんだけど、やりがいと賃金のバランスを考えるとちよつとね……。

祖母 いろいろと大変そうね。でも頑張っているから偉いわ。まあ、仕事の話はそれくらいにして、そろそろ夕御飯にしましょうよ。

太郎 そうだよ。お腹すいちゃったよ。ねえ、おじいちゃん、今日のメニューはなに？

祖父 ご期待あれ。今日はおじいちゃんの特製餃子だよ。

母 あら、お義父さん。また料理のレパートリーが増えましたね。

祖母 男の料理教室のおかげね。お仲間もできたみたいで楽しいらしいのよ。

さくら なんだかおじいちゃん、とつても若返ったって感じ。

祖母 そうでしょ。最近では何か特技を活かしてボランティアでも始めようか、なんて言っているくらい……。

母 掃除、洗濯もやっていたらいいように、ほんと助かってます。

祖母 変われば変わるもんですよ。現役時代は「**男に家事**なんてできるか」って言っていた人なのに……。

祖父 ウオッホン……。そろそろ餃子が焼けるんですが……。

太郎 そうだよ。早く食べようよ。

全員 では、いっただっきまーす！

男に家事

男に家事なんてできるか。こう思っている人は減ってきてはいるものの、現実にはまだまだ男性の家事参加は進んでいません。国際的にみても日本の男性の家事時間は少なく、アメリカ、ドイツ、スウェーデンにおける夫の一日の家事時間は2時間〜2時間半であるのに対し、日本はわずか24分です(平成15年、男女共同参画白書「より」)。

育児・介護休業法が改正されました

育児や介護を行う労働者の仕事と家庭の両立をより一層推進するため、改正育児・介護休業法(育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律等の一部を改正する法律)が平成17年4月1日より施行されます。

改正の主なポイントは次のとおりです。

育児休業及び介護休業の対象労働者の拡大
休業の取得によって雇用の継続が見込まれる一定の範囲の期間雇用者は、育児休業・介護休業がとれるようになります。

育児休業期間の延長

子が1歳を超えても休業が必要と認められる一定の場合には、子が1歳6か月に達するまで育児休業ができます。

介護休業の取得回数制限の緩和

対象家族1人につき、常時介護を必要とする状態に至るごとに1回の介護休業ができます。期間は通算して(延べ)93日までです。

子の看護休暇の創設

小学校就学前の子を養育する労働者は、1年に5日まで、病気・けがをした子の看護のために、休暇を取得できるようになります。

育児・介護休業法のお問い合わせ

東京労働局雇用均等室 03(3818)8408

私らしく輝いて

お父さん、
子どもたちに
いきいきとした姿を
見せてあげてますか。



二葉おやじの会・会長
梅田 俊明さん

「会」のモットーは、まず自分たちが楽しむこと。そして父親が楽しんでいる姿を子どもたちに見せてあげることです」

こう語るのは、二葉小学校の二葉おやじの会・会長の梅田さん。ふだん子どもが



になりながらも母親任せになりがちで、学校に来る機会のない父親が多いのを見て、父親にも積極的に地域や学校行事に参加してもらおうと、4年前にこの会が結成されました。

会員は二葉小に通う子ども父親全員ですが、仕事が忙しかったり、疲れている時に無理して参加しても楽しめません。そこで、その都度参加できる有志を募り、運動会やバザーなどの学校・PTA行事への参加はもちろん、親子で楽しめる催しを企画してきました。

「おやじたちって、スポーツや趣味で得意分野があったり、凝り性だったり、誰でも技の一つは必ず持っているものです。ふだん疲れている姿しか子どもに見せていない父親が、こ

ういう場で 技 を発揮してかっこいい姿を見せると、おやじの株もぐんとあがるといっても。親子のコミュニケーションも深まります」

現在、一人でも多くの方に体験してもらおうと、チラシでの広報活動のほか、活動の楽しさを直接伝えることで、参加メンバーも増えつつあります。とはいっても、昔と比べ、父親たちにとつて地域は知り合いも少なく、馴染みのない場所です。

「確かに、まだまだこういった場に出るのをためらう方も多いと思います。でもたとえ年に一回でもいい、ぜひ活動に参加して子どものいきいきとした姿をみてあげてほしいのです。私自身、親子で楽しい時間を共有できることほど、幸せなひとときはないと実感しています」



「おやじの会」の皆さん



おやじの会主催で行ったそば打ち大会の様子。この時もおやじ達の「技」が大活躍したとか